

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち	助手			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
作業療 法士科	人	人	人	人	人	人	6人	人	38 人	8.2人	
計	人	人	人	人	人	人	6人	人	38 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎生物学	15	新井 博仁	兼任
		基礎物理学	15	政野 仁	兼任
		文章表現法	15	小倉 昭一郎	兼任
		情報処理	15	吉田 雅弘	兼任
		心理学	15	瀧澤 颯大	兼任
		活動と分析	15	石川 寿郎	兼任
			3	中陳 寿枝	専任
			5	菊地 雅史	専任
		ソーシャルスキル I	15	芝 亜砂美	兼任
		ソーシャルスキル II	15	鈴木 道代	兼任
		ソーシャルスキル III	15	中陳 寿枝	専任
		ソーシャルスキル IV	8	中陳 寿枝	専任
		専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I	15
解剖学 II	15			曾我部 いづみ	兼任
生理学 I	15			曾我部 いづみ	兼任
生理学 II	15			曾我部 いづみ	兼任
身体運動機能学 I	15			箭内 雅志	専任
身体運動機能学 II	15			箭内 雅志	専任
	15			箭内 雅志	専任

	身体運動機能学実習	8	中村 航希	専任	
		8	菊地 雅史	専任	
	人間発達演習	15	笹木 美幸	兼任	
		8	星 有理香	専任	
		4	箭内 雅志	専任	
	運動学 I	10	時永 広之	兼任	
		5	箭内 雅志	専任	
	運動学 II	15	時永 広之	兼任	
	運動学演習	15	箭内 雅志	専任	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内部障害学 I	15	石引 秀樹	兼任
		内部障害学 II	2	箭内 雅志	専任
			3	星 有理香	専任
			3	中村 航希	専任
		神経障害学 I	2	箭内 雅志	専任
			3	星 有理香	専任
10			中村 航希	専任	
神経障害学 II		3	箭内 雅志	専任	
		2	星 有理香	専任	
		10	中村 航希	専任	
老年期障害学		8	渡部 恵	専任	
発達障害学 I		8	星 有理香	専任	
発達障害学 II		6	星 有理香	専任	
		2	中村 航希	専任	
運動器障害学 I		10	富永 淳	兼任	
		5	箭内 雅志	専任	
運動器障害学 II		3	箭内 雅志	専任	
		5	中村 航希	専任	
精神障害学		6	菊地 雅史	専任	
		10	中陳 寿枝	専任	
リスク管理と予防	7	高橋 久仁子	兼任		
	8	合佐毘 綾子	兼任		
臨床心理学	15	瀧澤 颯大	兼任		

保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション論	15	小林 巧	兼任		
	多職種連携	15	菊地 雅史	専任		
	リハビリテーション医療機器関連	3	渡部 恵	専任		
		2	星 有理香	専任		
		2	遠藤 祐紀	兼任		
		2	清川 雅文	兼任		
		2	堀 翔平	兼任		
		2	田中 栄一	兼任		
		1	根本 和奏	兼任		
		1	浦本 恵美	兼任		
	医療関係法規	8	旗手 俊彦	兼任		
	専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	5	箭内 雅志	専任
				3	星 有理香	専任
				3	中陳 寿枝	専任
3				菊地 雅史	専任	
3				中村 航希	専任	
3				渡部 恵	専任	
基礎作業学			15	星 有理香	専任	
基礎作業学演習 I			8	菊地 雅史	専任	
			7	中陳 寿枝	専任	
基礎作業学演習 II			10	菊地 雅史	専任	
			5	中陳 寿枝	専任	
作業療法総合演習 I			12	箭内 雅志	専任	
			9	星 有理香	専任	
			6	中村 航希	専任	
作業療法総合演習 II			7	箭内 雅志	専任	
			8	星 有理香	専任	
			7	中村 航希	専任	
			7	中陳 寿枝	専任	
作業療法特論 I			4	曾我部 いづみ	兼任	
			2	瀧澤 颯大	兼任	
			8	箭内 雅志	専任	

		6	星 有理香	専任
		2	中村 航希	専任
		2	中陳 寿枝	専任
		2	菊地 雅史	専任
	作業療法特論Ⅱ	15	星 有理香	専任
	作業療法特論演習	15	中陳 寿枝	専任
		15	菊地 雅史	専任
	作業療法研究法Ⅰ	8	神田 亮	兼任
	作業療法研究法Ⅱ	8	星 有理香	専任
作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	6	箭内 雅志	専任
		2	星 有理香	専任
	作業療法管理学Ⅱ	8	菊地 雅史	専任
作業療法評価学	作業療法評価学総論	8	中村 航希	専任
	身体障害作業療法評価学	7	箭内 雅志	専任
		2	星 有理香	専任
		8	中村 航希	専任
	身体障害作業療法評価演習Ⅰ	7	箭内 雅志	専任
		2	星 有理香	専任
		8	中村 航希	専任
	身体障害作業療法評価演習Ⅱ	9	箭内 雅志	専任
		6	星 有理香	専任
	発達障害作業療法評価学	15	星 有理香	専任
	精神障害作業療法評価学	12	中陳 寿枝	専任
		15	菊地 雅史	専任
	精神障害作業療法評価実習	17	中陳 寿枝	専任
		12	菊地 雅史	専任
	老年期障害作業療法評価学	8	中陳 寿枝	専任
作業療法治療学	身体障害作業療法治療学	3	箭内 雅志	専任
		7	中村 航希	専任
		5	三家 早織	兼任
	身体障害作業療法治療演習	9	箭内 雅志	専任
		6	神田 亮	兼任

精神障害作業療法 治療学	8	中陳 寿枝	専任	
	7	菊地 雅史	専任	
精神障害作業療法 治療演習	8	中陳 寿枝	専任	
	7	菊地 雅史	専任	
老年期障害作業療 法治療学	7	箭内 雅志	専任	
	8	中陳 寿枝	専任	
老年期障害作業療 法治療演習	5	中陳 寿枝	専任	
	10	中村 航希	専任	
高次脳機能障害作 業療法治療学	15	中村 航希	専任	
発達障害作業療法 治療学	13	星 有理香	専任	
	1	田中 栄一	兼任	
	1	小玉 武志	兼任	
発達障害作業療法 治療演習	8	星 有理香	専任	
	1	田中 栄一	兼任	
	3	小玉 武志	兼任	
	3	斉藤 崇宣	兼任	
日常生活活動学	15	中村 航希	専任	
日常生活活動演習	8	齋藤 駿太	兼任	
	7	山岸 祐太	兼任	
装具関連リハビリ テーション演習	15	中村 航希	専任	
内部障害作業療法 学	2	箭内 雅志	専任	
	4	中村 航希	専任	
	2	伊勢 建佑	兼任	
職業関連作業療法 学	8	菊地 雅史	専任	
リハビリテーショ ン治療各論	2	神田 亮	兼任	
	1	佐々木 恵太	兼任	
	1	佐々木 喜之	兼任	
	1	佐藤 実梨	兼任	
	1	池内 直人	兼任	
	1	大澤 茉梨恵	兼任	
	1	依田 泰知	兼任	
地域作業療法学	地域作業療法 I	2	箭内 雅志	専任

		2	星 有理香	専任
		6	菊地 雅史	専任
		2	小笠原 啓人	兼任
		2	白井 美奈子	兼任
		1	依田 泰知	兼任
	地域作業療法Ⅱ	8	菊地 雅史	専任
	生活環境学	15	箭内 雅志	専任
臨床実習	臨床実習Ⅰ	23	箭内 雅志	専任
			星 有理香	専任
			中陳 寿枝	専任
			菊地 雅史	専任
			中村 航希	専任
			渡部 恵	専任
	臨床実習Ⅱ	23	箭内 雅志	専任
			星 有理香	専任
			中陳 寿枝	専任
			菊地 雅史	専任
			中村 航希	専任
			渡部 恵	専任
	臨床実習Ⅲ	113	箭内 雅志	専任
			星 有理香	専任
			中陳 寿枝	専任
			菊地 雅史	専任
			中村 航希	専任
			渡部 恵	専任
	臨床実習Ⅳ	180	箭内 雅志	専任
			星 有理香	専任
中陳 寿枝			専任	
菊地 雅史			専任	
中村 航希			専任	
渡部 恵			専任	
臨床実習Ⅴ	180	箭内 雅志	専任	

			星 有理香	専任
			中陳 寿枝	専任
			菊地 雅史	専任
			中村 航希	専任
			渡部 恵	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
病院・施設の見学	1年後期	作業療法評価学総論	1年通年
訪問・通所リハの見学	2年前期	地域作業療法学 I	1年後期
作業評価の実践	2 年後期	作業療法総合演習 I	2 年通年
作業療法の実践	3 年前期 (2 回)	作業療法総合演習 II	3 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	① 学校関係者評価委員会 ② 西野学園教学監査（教学マネジメント室）
委員名（委員長）	① 濱本龍哉（委員長） ② 米田裕義（教学マネジメント室長）
組織の開催頻度	① 1年に2回 ② 1年に1回
組織の取り組み内容	・教職員の自己点検に基づく学校評価
	・学生による授業評価の分析
	・研究授業及び公開授業の企画並びに委員による参観
	・教育改善の研修会の開催企画
	・教育、教務に関するマニュアル作成と研修
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://nishino-g.ac.jp/about/johokokai/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	① 教学マネジメント室 ② 教育課程編成委員会 ③ 学科内シラバス調整会
	委員構成等	① 米田裕義（室長）、学園職員 ② 学内教員数名及び学外有識者数名で構成 ③ 学科教員
	改善の仕組みの実際	① シラバス作成に関する研修会、シラバス作成要領の作成、シラバス内容の確認指導 ② カリキュラム編成、多職種連携の取り組みに関する意見交換、助言 ③ 科目内容、科目間連携の検証と内容改善

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価を各組織、教員にフィードバックし、定期的に改善策の検討及び実践・検証を行っている。
 適正な学校運営、効果的な教育活動を実践するため、計画的にマニュアルの整備、研修、学内プロジェクトを実施している。
 また、教務室の環境を教員間でシームレスにすることで、学科内及び学科間の情報共有を日常的に行い、取り組みに関する共通認識を醸成している。